

**令和2年・3年度
鹿児島県租税教育研究委嘱校**

租税教育の実際



長浜港からの「島立ち」

**令和3年10月
薩摩川内市立海星中学校**

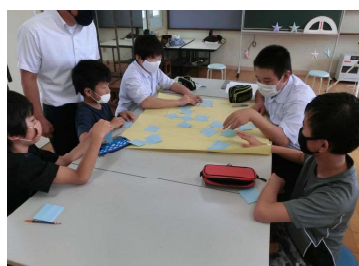
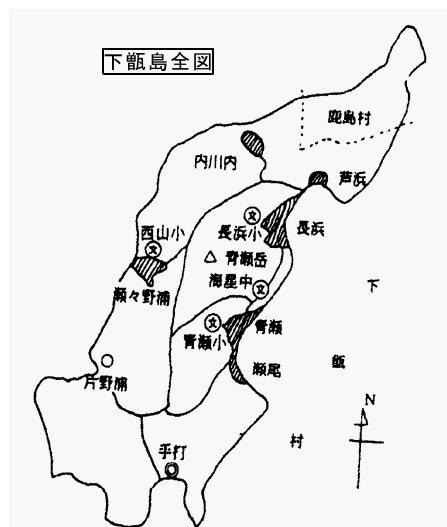
《 目 次 》

I	はじめに	
1	校区及び学校の概要	1
2	生徒の実態	1
II	研究の概要	
1	研究主題	2
2	主題設定の理由	2
3	研究目標	2
4	研究組織	2
5	租税教育全体計画	3
6	研究の経過（時期別計画）	4
III	研究の実際	
1	令和2年度・令和3年度の租税教室	5～8
2	各教科・領域における取組	9～16
3	その他の取組（税に関する作品への取組等）	17～19
IV	研究のまとめ	
1	アンケート結果の分析	19～21
2	成果と課題	21
V	おわりに	21

I はじめに

1 校区及び学校の概要

本校は薩摩川内市下甕町に位置し、昭和53年に5つの中学校が統合して開校した。平成24年度から鹿島中学校が、令和3年度から海陽中学校が休校となったことに伴ってさらに統合が進み、現在は島内唯一の中学校となっている。生徒数33名、各学年1学級の小規模校であるが、校区内の小学校の児童数も年々減少しており、保護者の仕事の関係やウミネコ留学制度等により転出入も多い。そのため、他地域出身者が多いなどの状況の中にあるが、人々のつながりやふるさとに根ざした特色ある教育活動が行われている。また、甕島地区には高等学校がなく、中学校卒業後は親元を離れて生活（島立ち）していかなければならない。「島立ち」後も力強く生き抜くために、確かな学力、コミュニケーション力を基盤とした豊かな人間性や社会性、自己管理能力を身に付けていく必要があることを踏まえ、9年間の小中一貫教育で「島立ち」を意識した教育活動が行われている。



小5・6・中1の交流学習



小中合同運動会

2 生徒の実態

本校は島内唯一の中学校であるため校区が広く、通学距離の長い生徒はスクールバスを利用して通学している。今年度は統合初年度ということもあり、新しい環境に戸惑う様子も見られたが、明るく純朴な生徒が多いこともあってすぐに打ち解け、元気に学校生活を送っている。生徒会スローガンとして「元気な声 明るいあいさつ海星中」を掲げ、“あいさつレベル5（全ての人に対して笑顔で気持ちよくあいさつ）”を目指して日々の活動に取り組んでいる。登下校時、通行する車に対して立ち止まって会釈をすることも伝統として引き継がれており、下甕島を訪れた際にその姿に感激して便りをくださった方もいるほどである。



登下校時の様子



生徒会あいさつ運動



P T A 登校指導

II 研究の概要

1 研究主題

租税教育を通して、税に関する興味・関心を高めるとともに、税や財政についての理解を深め、よりよい社会をつくろうとする生徒を育成する。

2 主題設定の理由

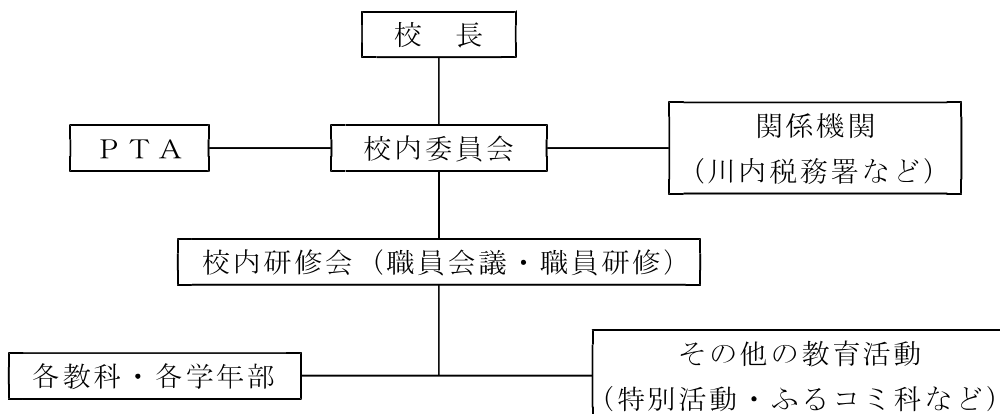
中学生は、学校・家庭・地域においてさまざまな学習や体験を通して新たな知識を得たり、それをもとに自分の考えを広げたりする中で、自分と社会との関わりを意識する機会が多くなる時期である。しかし、今回鹿児島県租税教育研究委嘱を受けるに当たり、租税という視点での意識調査を行ったところ、全体的に税に関する興味・関心が低く、その必要性についての理解も十分でないことがわかった。

租税教育を通して、普段の生活の中に当たり前のようにある「暮らしやすさ」や「便利さ」が国や地方公共団体の行政活動の上にあることや、それに伴う税や財政の仕組みについて理解を深めることが、責任ある社会人としての将来に大いに役立ち、また、租税を題材とする民主教育の中で、自主的に判断し行動するための能力を育てることが、本校の学校教育目標「知・徳・体の調和のとれた生徒の育成」にも繋がると考え、本主題を設定した。

3 研究目標

- (1) 全教育活動を通して、租税に関する興味・関心を高めるとともに、正しい知識・理解を深める。
- (2) 租税教室の実施を通して、身近な生活と結びつけながら租税についての認識を深める。
- (3) 勤労を尊び、公共物を大切にできる態度や資源を大切にできる態度を養う。

4 研究組織



5 租税教育全体計画



6 研究の経過（時期別計画）

○ 1年目の取組（令和2年度）

月	研究内容・行事等
4月	第1回租税教育委員会（今後の見通しについて）
5月	生徒意識アンケート実施
6月	第2回租税教育委員会（研究主題・計画の策定等）・研究委嘱状交付・職員研修 令和2年度第1回「租税教室」（財務教育プログラム）【創意】
7月	「税に関する作品」（作文・書写）の取組【国語科】
8月	教科領域部会・学年部会（今後の活動計画確認）
9月	「税に関する作品」出品【国語科】
10月	
11月	税に関連する授業【社会科】
12月	令和2年度第2回「租税教室」（独占禁止法教室）【創意】 これまでの取組確認・反省等
1月	テーマ研究の前期取組まとめ
2月	次年度への取組確認と資料の整理
3月	初年度のまとめと来年度の研究計画確認

○ 2年目の取組（令和3年度）

月	研究内容・行事等
4月	職員研修（令和3年度の研究計画確認） 第1回租税教育委員会（研究発表に向けた取組確認①）
5月	生徒意識アンケート実施
6月	令和3年度第1回「租税教室」（税理士による講話）【創意】 第2回租税教育委員会（研究発表に向けた取組確認②）
7月	生徒意識アンケート実施 第3回租税教育委員会（学期反省・研究のまとめに向けて①）
8月	研究のまとめ・授業公開準備 第4回租税教育委員会（研究のまとめに向けて②）
9月	「税に関する作品」出品【国語科】 第5回租税教育委員会（研究のまとめに向けて③）
10月	税に関連する公開授業【社会科】 生徒意識アンケート実施 令和3年度第2回「租税教室」（財務教育プログラム）【創意】
11月	租税教育研究会での発表（誌上）
12月	第6回租税教育委員会（学期反省）
1月	
2月	研究のまとめ・職員研修
3月	資料整理・来年度の方向性の確認

III 研究の実際

1 令和2年度・令和3年度の租税教室

○ 令和2年度（2回）

〔第1回〕

日時：令和2年6月5日（金） 5・6校時（13：50～15：40）

対象：全学年（1年生9名・2年生6名・3年生3名 計18名）

内容：「日本の財政を考えよう」

日本の財政について興味をもち、財政を自分たちに関わる問題としてとらえ、自分たちの国の将来について考え判断できる知識を育むために、アクティブラーニングを取り入れて行われる「財政教育プログラム」を実施した。当日は鹿児島財務事務所・川内税務署・鹿児島税務署から職員を招き、講師としてのご指導や生徒の活動の様子の参観をいただいた。

グループワーク「財務大臣になって予算を作ろう！」では、タブレット端末を使用して社会保障や公共事業など予算などについて理由を話し合いながら歳出・歳入の増減を検討し、国の歳出と税収の関係や借金の問題点などについて考えを巡らせることができた。



グループワークシート【財務大臣になって予算を作ろう！】

E 班

1. 予習のテーマを決めよう。（例）「高齢者に優しい社会」、「教育の充実」など

借金ゼロの社会

2. グループで理想の予算を考えよう。グループで話し合った内容（増減した理由など）をシートに書き込みながら進めてください。

歳出予算		歳入予算	
<p>①-1 社会保障（年金）</p> <p>増減（ ）% □増減維持 □減額（10）%</p> <p>理由：高齢者にも働いてもらう。</p>	<p>② 地方への交付金</p> <p>増減（ ）% □増減維持 □減額（50）%</p> <p>理由：地方に頑張ってもらい</p>	<p>③ その他</p> <p>増減（ ）% □増減維持 □減額（90）%</p> <p>(A)科学技術研究</p> <p>増減 □増減維持 □減額</p> <p>理由：</p>	<p>④ 所得税</p> <p>増減（50）% □増減維持 □減額（ ）%</p> <p>理由：可能</p>
<p>①-2 社会保障（医療）</p> <p>増減（ ）% □増減維持 □減額（30）%</p> <p>理由：個人負担を増やしてもらう。</p>	<p>③ 公共事業</p> <p>増減（ ）% □増減維持 □減額（10）%</p> <p>理由：今あるもので頑張る</p>	<p>(B)食料安定供給</p> <p>増減 □増減維持 □減額</p> <p>理由：食品ロスと減らす取り組みをやる</p>	<p>⑤ 消費税</p> <p>増減（ ）% □増減維持 □減額（ ）%</p> <p>理由：負担になるから</p>
<p>①-3 社会保障（介護）</p> <p>増減（ ）% □増減維持 □減額（ ）%</p> <p>理由：少子高齢化のため。</p>	<p>④ 防衛</p> <p>増減（ ）% □増減維持 □減額（10）%</p> <p>理由：平和だから。</p>	<p>(C)デジタル平準策</p> <p>増減 □増減維持 □減額</p> <p>理由：</p>	<p>⑥ 法人税</p> <p>増減（50）% □増減維持 □減額（ ）%</p> <p>理由：可能</p>
<p>①-4 社会保障（子ども・子育て）</p> <p>増減（ ）% □増減維持 □減額（10）%</p> <p>理由：</p>	<p>⑤ 教育</p> <p>増減（ ）% □増減維持 □減額（10）%</p> <p>理由：</p>	<p>(D)国際協力</p> <p>増減 □増減維持 □減額</p> <p>理由：</p>	<p>⑦ その他の税収（預け払い・遺・贈り物など）</p> <p>増減（100）% □増減維持 □減額（ ）%</p> <p>理由：可能</p>
<p>①-5 社会保障（生活保護等）</p> <p>増減（ ）% □増減維持 □減額（10）%</p> <p>理由：支給する数も増やさないから。</p>	<p>⑥ 雑費</p> <p>増減（ ）% □増減維持 □減額（10）%</p> <p>理由：</p>	<p>⑦ 国庫返付</p> <p>増減 □増減維持 □減額</p> <p>理由：</p>	
<p>社会保障 合計</p> <p>増減（ ）% □増減維持 □減額（ ）%</p>		<p>⑧ 「社会保障 合計」の増減はタブレットの結果をメモして下さい</p>	



《生徒感想》

- ・ 今までは税が何に使われているのか知らないまま税をはらっていました。ですが、租税教室を通して何に使われているかを知りました。僕は、税の集め方や配分をグループで考えるときにたくさん質問もできました。すごく勉強になったし、楽しかったです。(1年男子)
- ・ 私は税について詳しくありませんし、興味もありませんでした。ですが今回の租税教室でいろいろなことを学び、知ることができたのでとてもいい機会になりました。今回の講演の内容や学んだことを家族にも伝えたいです。(1年女子)
- ・ 私は日本がどれだけ借金をしているかがわかったし、消費税がどれだけ役に立っているかを知ることができてよかった。もっと税のことを知りたいと思ったので、インターネットや本で調べてみたい。(2年男子)
- ・ 税について、実際にどんな種類があるのか、どんな役割を果たしているのかを今日の話をとおして知ることができました。日本は借金大国だと聞いたことがあったけど、今日、日本の借金の額を聞いて本当に驚きました。一万円札を積み上げると、その高さはエベレストの1000倍にもなると聞いてさらに驚きました。今日は税について考えるいい機会になりました。(3年女子)

[第2回]

日時：令和2年12月3日(木) 4校時

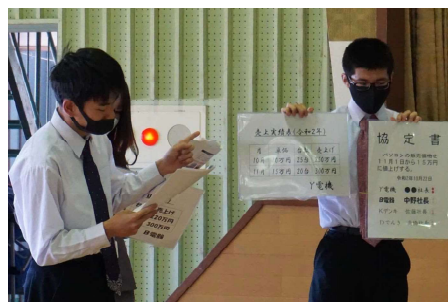
対象：全学年(1年生9名・2年生4名・3年生3名 計16名)

内容：「シミュレーションゲームで学ぶ市場経済の仕組み」

身の回りのあらゆるところで税金が活用されていることを知る一つの例として、公正取引委員会の存在とその働きについて知り、その働きにより市場経済の基本ルールが守られること、ひいては消費者である私たちの利益が守られることについて学んだ。当日は、公正取引委員会事務総局九州事務所から講師を招き、講話やグループ活動の指導をしていただいた。

グループ活動では、中学校全体を「my Phone市場」と想定し、各グループが販売店や消費者の立場に立ってサービスの内容や費用の面から価格設定を行ったり、比較して購入先を検討したりする活動を通して、市場経済での競争の大切さについて学んだ。

模擬立入検査・模擬事情聴取の寸劇には本校生徒も役者として参加し、カルテルの証拠発見現場の緊迫感ある様子が再現され、「市場の番人」としての公正取引委員会の役割について学ぶことができた。



《生徒感想》

- ・ シミュレーションゲームでは実際に自分たちで商品の金額を設定などすることができて、その難しさを体感することができました。公正取引委員会がどんな仕事をしているかわかる劇を見ておもしろかったけど、本当は大変なことなのだと思います。とても貴重な話を聞けてよかったです。(1年男子)
- ・ 公民の授業で独占禁止法のことについて習っていてある程度の意味は知っていたけど、今日初めてわかったこともたくさんありました。競争がなくなるとお互いよりよい商品を安くしようという意欲がなくなってしまうのが受験にも似ていると思いました。今日は独占禁止法と、独占やカルテルがなぜいけないのかということがよくわかりました。(3年女子)

○ 令和3年度(2回)

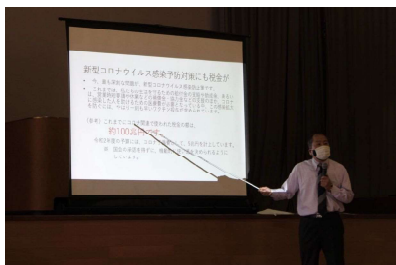
[第1回]

日時：令和3年6月17日(木) 4校時(11:40~12:30)

対象：全学年(1年生11名・2年生9名・3年生13名 計33名)

内容：「税金はなぜ必要なのか・主な税金の種類と仕組み」

導入では税理士の仕事について説明があり、DVD、の後にクイズ形式で税の種類や国による税の違い・税の歴史などについて学んだ。現在最も深刻な問題として、新型コロナウイルス予防対策にも税金が投入されていることについて触れ、これまでにコロナ関連で使われた税金の額や、そこからさらに、国の借金の問題などについても考えることのできる内容の講話をいただいた。



《生徒感想》

- ・ 僕は税の種類などをよく知りませんでしたが、約50種類もあると聞いてとてもびっくりしました。また、100兆円もコロナ関連に使われているというのもおどろきました。話を聞くうちに、少しずつ税に興味がわいてきました。そして、税金があってよかったです。(1年男子)
- ・ 今日の学習で税のことについて改めていろいろなことを知りました。税がないと大変な世界になるということがDVDでよくわかりました。やっぱり税はあった方がよい世界になることもわかりました。昔は「うさぎ税」というのがあったと知ってびっくりしました。また、外国では救急車が有料ということにとってもびっくりしました。日本は恵まれていると思いました。(2年女子)

- 私は、今通っている学校も、使っている教科書も、全て税が使われていて、私たちがそれをもらっているということを改めて考えました。私が大人になったらちゃんと税を払って、次の世代の子供たちにたくさん遊んだり学んだりしてもらいたいと思いました。私がいただいた税の分を、将来恩返しできるようにしたいです。

(3年女子)

[第2回]

日時：令和3年10月14日(木) 3・4校時(10:40～12:30)

対象：3年生13名

内容：「日本の財政を考えよう」

前年度実施した「財務教育プログラム」の授業を、今回は3年生のみを対象として行ったが、中学校が統合したことにより初めて受講する生徒が7割と、大半を占めるかたちとなった。

グループワーク「財務大臣になって予算を作ろう！」では、タブレット端末を使用して社会保障や公共事業など予算などについて理由を話し合いながら歳出・歳入の増減を検討し、国の歳出と税収の関係や借金の問題点などについて考えを巡らせることができた。3年生は社会科公民分野で国の財政について学んだばかりで、グループワークでもそれぞれが自分の視点をもって活発に意見交換をしていた。



《生徒感想》

- グループで国の予算を作るとき、財務大臣はみんなのことを考えて税を調節しているのだなと思いました。借金がある日本だけど、私たちが幸せに暮らせているのは、税の制度があり、みんなが協力しているからなのだと思います。(女子)
- 私は、グループで国の歳入・歳出を考えるのがとても楽しくて、さらに、国の借金を減らす難しさを知りました。そして、これ以上国の借金が増えていくのはこわいなと感じました。私たちは恵まれているということを考え、公共のものを大切に、税金の大切さを改めて家族や友達に伝えたいです。(女子)
- 国の財政について考えるグループ活動では、他のグループの意見を聞いて自分たちの意見と比べることで、より関心を深めることができました。これからは、今日学んだことを生かして、財政などのニュースを見ていきたいと思います。(男子)
- 僕はあまり公共サービスなどについて知らなかったもので、今回とてもいい勉強になりました。グループごとに分かれて歳入・歳出について考えたとき、国の借金を減らすためにいろいろ考えましたが、とても難しいなと思いました。(男子)

2 各教科・領域における取組

○ 社会科における取組

租税教育と関連のある内容について令和3年度に公開授業を行い、市教育委員会をはじめ、校区内の小学校や隣接する中学校からの参観をいただいた。

社会科 学習指導案

日 時： 令和3年10月6日（水） 3校時

対 象： 3年1組 男子9名 女子4名 計13名

1 単元（題材）名 第3章2節 国の政治の仕組み

2 単元について

本単元では、国の政治の仕組みについて学ぶ。わが国は立憲国家として、立法・司法・行政の三権が互いを支え合い、抑制し合いながら国民の豊かな生活を支えている。基礎的な知識は小学校において既習なので、中学校では、より具体的な課題にも気づかせ、総合的に考えを深めさせることで、子供たちの中に民主的・平和的な国家・社会の形成者としての資質を育てていく。

3 研究主題との関連

(1) 研究主題

租税教育を通して、税に関する興味・関心を高めるとともに、税や財政についての理解を深め、よりよい社会をつくろうとする生徒を育成する。

(2) 研究主題との関連について

本時の内容は、「租税教育」の「次代を担う児童・生徒が、民主主義の根幹である租税の意義や役割を正しく理解し、社会の構成員として税金を納め、その使い道に関心を持ち、さらには納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるという自覚を育てる」という目的に添い、社会科で税に関する知識を学び、その意義や役割について生徒に理解させることを目指すものである。

しかしながら、多くの生徒にとって「税」は抽象的な概念であり、だれが集めているのか、どこへ運ばれるのかを想像しにくい。そのため、学びも「他人事」になりがちである。そこで本時は、税の使い道として、具体的にイメージしやすい公務員の給与を題材に取り上げた。また、警察官や消防士は、子供たちにとって身近な公務員であり、生活の延長上にあるため、「自分事」として学ぶことができると思う。現在、大人の社会においては、財政難による人件費の削減が叫ばれているが、「減税」と「サービスの削減」は、子供たちにとっても、切実性のある題材になるだろう。

4 生徒の実態

(1) 学級の様子

本学級は、離島の小規模学級である。幼少時より人間関係が固定されてきたためか、存在感を示すことには消極的な生徒が多く見られる。また、本年度からの中学校合併により、旧海星中出身と旧海陽中出身の生徒の間に遠慮がうかがえ、それが授業時の受け身の姿勢につながっているように感じられる。しかし、半年後の卒業を機に、ほとんどの子は島外での新しい人間関係の中で生活していかなければならない。そこでは、適切に存在感を示すことが求められてくるだろう。中学校生活のなかで、その土台づくりをさせておく必要があるように思う。

(2) 各種調査結果より

2021年4月に実施したNRTでは、学級の学力偏差値が45.5と全国平均より低い結果となった。これは、小集団のために競争が起こりにくいことなどが理由として考えられる。また、学習内容においても、近現代史の習得が不十分なため、公民科においても、適宜復習をしながら学習を進めていく必要がある。

5 単元の目標

- (1) 国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく民主政治が行われていることを理解している。(知識・技能)
- (2) 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察・構想し、表現している。(思考・判断・表現)
- (3) 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

6 単元の指導計画 (全9時間)

時	学習内容	学習活動
1	国会の地位と仕組み ・国会の地位と仕組みについて理解する。	国会が「国権の最高機関」とされている理由について、民主主義に着目して考察し、表現する。
2	法律や予算ができるまで ・国会の主な仕事について理解する。	「衆議院の優越」が認められている理由について、効率と公正に着目して考察し、表現する。
3	行政を監視する国会 ・国会と行政の関係について理解する。	私たちと国会との関係について、考察し、表現する。

4	行政の仕組みと内閣 ・内閣の役割と仕組みについて理解する。	日本の内閣と国会との関係について、考察し、表現する。
5	行政の役割と行政改革【本時】(5/9) ・行政の役割と改革について理解する。	行政改革が進められた理由について、身近な生活にひきつけながら考察し、表現する。
6	裁判所の仕組みと働き ・私たちの生活における裁判の仕組みについて理解する。	司法権の独立が必要な理由について、個人の尊重に着目して考察し、表現する。
7	裁判の種類と人権 ・裁判はどのような仕組みになっているかについて理解する。	裁判によって守られている人権について考察し、表現する
8	裁判員制度と司法制度改革 ・裁判がより身近で公正なものになるための取り組みについて理解する。	裁判員制度や取り調べの可視化が導入された理由について、個人の尊重に着目して考察し、表現する。
9	三権の抑制と均衡 ・日本の三権相互の関係について理解する。	三権分立が採られている理由について考察し、表現する。

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく民主政治が行われていることを理解しているか。	対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義について、対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察・構想し、表現しているか。	民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしているか。

8 本時の実際

(1) 題材 行政の役割と行政改革 (本時 5/9)

(2) 本時の目標





国民から集めた租税をもとにして政治を行う行政の役割について理解し、行政改革が進められた理由について考察して、話し合い、意見をまとめることができる。

(3) 本時の指導法

新指導要領においては、「主体的・対話的で深い学び」として、アクティブラーニングの導入が求められるようになった。そこで、本時においては【個人 ⇒ ペアワーク ⇒ グループワーク ⇒ クラス全体】と、少しずつ集団を大きくしながら、思考を練り上げていくという協働作業を経験させていく。

(4) 本時の学習過程

★発問

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点
導入	<p>1 公務員専門学校のCMを見る。 ★「公務員って、どんな人だろう？」</p> <p>2 本時の学習目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>税をもとにして政治を行う行政の役割は、どのように変化してきたか。</p> </div>	5分	<p>1 ノートに書かせ、ペアワークで考えさせて、発表させる。</p> <p>2 板書で確認させ、ノートに記入させる。</p>
展開	<p>3 教科書 p.98「行政を担当する公務員と財政」を音読する。</p> <p>4 薩摩川内市消防局下飯分駐所員に、仕事内容について質問する。 ★「公務員は何をしているのだろうか？」</p> 	3分	<p>3 重要語句にアンダーラインをさせる。</p>
	<p>5 電子黒板で、行政を担当する公務員について説明する。</p>	8分	<p>4 質問は、あらかじめ準備させておく。</p> 
	<p>6 教科書 p.98「行政権の拡大」を音読する。</p>	3分	<p>5 説明を聞いて、ノートにまとめさせる。</p> <p>6 重要語句にアンダーラインをさせる。</p>
	<p>7 公務員の職域の拡大について考えさせる。 ★「税によって雇われている公務員は、どんな種類があるだろうか？」</p> 	10分	<p>7 グループワークでブレインストーミングに取り組みせ、発表させ、意見をまとめる。</p> 

	<p>8 電子黒板で、行政権の拡大について説明する。</p> <p>9 教科書 p.99「行政改革」を音読する。</p> <p>10 電子黒板で、「借金時計」を見る。</p> <p>11 減税できたとしても、公共サービスを減らしてしまってもよいのかを、考えさせる。</p> <p>★「税金を減らせるなら、下甌島の警察官と消防士を減らしてしまってもよいのだろうか？」</p>	<p>3分</p> <p>2分</p> <p>8分</p>	<p>8 説明を聞いて、ノートにまとめさせる。</p> <p>9 重要語句にアンダーラインをさせる。</p> <p>10 数字が何を意味しているのか予想させる。</p> <p>11 各自のノートに意見と理由を書かせた後、YES/NOに分かれさせて、クラス全体で討論をさせて、意見をまとめさせる。</p>
終末	<p>12 本時のまとめを行い、確認問題に取り組ませる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>税を有効に活用するために、行政改革が進められている。</p> </div> <p>13 次時の学習内容を知らせる。</p>	8分	<p>12 租税教室で扱った内容を思い出させ、教科書ワークに取り組ませる。</p> <p>13 教科書次ページで確認する。</p>

(5) 評価

行政の役割について理解し、行政改革が進められた理由について考察して、表現することができたか。

9 板書計画

目標 … 税をもとにして政治を行う行政の役割は、どのように変化してきたか。

☆行政を担当する公務員と財政
 国や地方公共団体で行政の仕事を行う職員 … 公務員
 ⇒ 全体の奉仕者

☆行政権の拡大
 政府は限られた税を、有効に支出することで政治を行っている … 財政

☆行政改革
 行政の効率化や簡素化を進めている … 行政改革
 ⇒ 民間でも救急車ができるようになった … 規制緩和

まとめ … 税を有効に活用するために、行政改革が進められている。

○ 校内掲示の充実

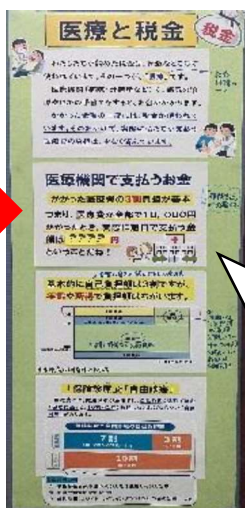
生徒の税に対する意識を高める手立てとして、さまざまな掲示コーナーで、税に関する掲示を工夫した。

＜図書室前の掲示＞



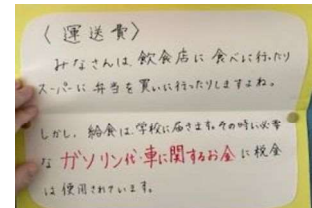
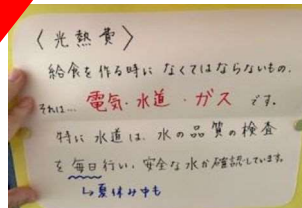
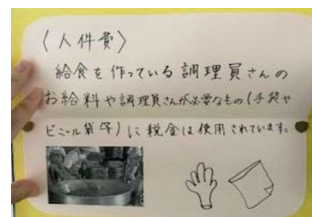
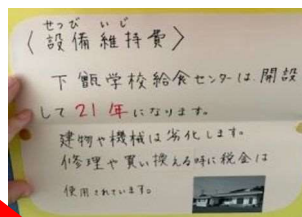
「なぜ税を納めなければいけないのか」
「税はどのようなことに役立っているのか」
「世界のユニークな税」などを紹介する掲示がされており、生徒の税に関する興味や知識を高めた。

＜保健の掲示スペース＞



「医療と税金」というテーマで、医療機関でかかるお金が税で補助されていることなどを紹介している。クイズ形式になっており、紙をめくって答えを確認する生徒の姿が見られた。

＜食育の掲示スペース＞



税金が、毎日食べている給食にも使われていることや、どのようなところで役立っているかなど紹介した。

○ 読書指導での取組

図書室内に「租税コーナー」のスペースを設け、税に関する本を集め紹介した。生徒の目にとまるようにイラスト付きで本の紹介をするなど工夫した。1カ所に集めてコーナーをつくることで、生徒がすぐに手に取って見ることができ、生徒の興味・関心を高める手立てとなった。



○ 生徒会活動での取組

リサイクル活動として、生徒会本部が中心となり、空き缶回収に取り組んでいる。地域の方々にも協力していただき、毎年約1万缶回収している。令和2年度は全校生徒にアンケートをとり、「地域に還元できるものを購入したい」という意見から、空き缶回収で得た収益金で消毒液ディスペンサーを購入し、校区内2カ所のフェリーターミナルに寄贈した。



鹿児島県 鹿児島市 鹿児島市立海星中学校

TEL: 0994-5-0054 FAX: 0994-5-0371
〒894-8211 鹿児島市海星町下町1番地(旧海星中)

本校のホームページは、本校のホームページです。

鹿児島市立海星中学校
Kaisei Junior High School

本校のホームページは、本校のホームページです。

ようこそ！ 鹿児島市立海星中学校のホームページへ

お知らせ～令和3年度～

★「空き缶回収」のご協力をお願い致します。(生徒会より)

※生徒会で、缶を回収しています。ご家庭で缶がありましたら、学校(技術室)の方へお持ちください。

現在 (6/24) アルミ缶 **5430 缶**

スチール缶 **0 缶** ご協力ありがとうございます。

ホームページでも呼びかけをしています。

鹿児島の話題

地域貢献のために
アルコールディスペンサーを寄附

3月23日(火)、海星中学校(下壠町)から、長浜港ターミナルおよび鹿児島旅客待合所へアルコールディスペンサー(自動吐出装置)の贈呈がありました。これは、同中学校の生徒会の取り組みで集めた空き缶による収益金で購入されたもので、地域のために役立つものという思いから贈られたものです。

市の広報誌に掲載されました。

昨日、鹿児島港の待合室の掃除をして、
長浜港や中津の寄贈の消毒器が
設置してあるのに、気がつかず、びびりして、
を取りました。ほんとうに、あんなに、
瀬島は、感謝者がいっぱい、水熊の、
かみ先、いっぴい、マスクは、
しつこく、感謝をおります。海星、
しつこく、感謝をおります。海星、
の、かみ先、いっぴい、マスクは、
しつこく、感謝をおります。海星、

監修

地域の方からお礼のはがきが届きました。

3 その他の取組

○「税に関する作品」への取組

書道の部・作文の部に全校で取り組んでいる。作文は、租税教室で学習した内容を思い起こしながら、自分の身近な生活と関連づけて書いている作品が多く見られた。



令和2年度「税に関する作品」作文の部 川薩地区税務協力団体長連絡会優秀賞

税の大切さ

1年 岩重 奏太郎

ぼくは今まで、税が何に使われているのか知りませんでした。小学校の社会で、国民の三大義務を習いました。義務があるというくらいなので、「国のためになっているんだろうな」とは思っていました。でも、実際に税がどのように使われているのか、具体的に聞いたことがなかったので、とても興味がありました。そんなとき、ぼくの学校では租税教室がありました。その中から印象に残ったものを三つ紹介します。

一つめは、日本は借金大国だということです。借金が数百兆円あると聞きました。母から、以前は消費税がなく、消費税が導入されたときは3パーセントだったと聞きました。それが今では10パーセントになっています。消費税は増えているのに借金は減るところか増えているそうです。今回の租税教室では、日本の借金を減らすために、自分が財務大臣だったらどうするかを考えるグループ活動をしました。ぼくのグループでは、土木費にあてるお金を一番に減らしました。理由は、現代では住みやすい街になっているからです。でも、実際にはすべての国民のことを考えて決めていかなければならないので、政治や日本のことをもっと知らなければならぬと思います。簡単には決められないと思いました。

二つめは、税の大切さです。公務員の給料、学校の設備、救急車や消防車など使われています。税にはさまざまな種類があって、国民が納めたもので国民の生活を守っています。ぼくは今まで、何のために税があるのか知りませんでした。国民の生活のためにあるシステムと聞いて「すごい考えだな」と思いました。自分の払った税で他の人を助けることができるということがうれしいです。日本はみんなが助けあって生活しているというところが、とてもすばらしいと思います。

三つめは、僕が当たり前に通っている中学校も税でできているということです。校舎、体育館、パソコンなども税が使われていると知りました。当たり前と思っている学校生活もたくさんの人に支えられているということに感謝の気持ちがありました。ぼくやぼくの身近にいる大人が納めた税も、誰かを支えているはずです。助け合いの心が大切なのだと改めて実感しました。

ぼくは、この租税教室で税の使い道や日本の状況を学びました。みんなが納めた税がみんなの生活を守ったり、みんなの命を守ったりできるシステムが大事だと思います。自分たちの生活は税のおかげだということを心に留めておきたいと思います。そのためにも、税の仕組みや使われ方に関心をもっていきたいと思います。



○ 公共事業に関わる取組

令和2年8月に、島民悲願の「甕大橋」が開通した。鹿島側の橋のたもとには本校生徒が書いた文字から作られた橋名板が設置され、また、開通記念誌への寄稿や、タイムカプセル埋設事業への参加など、県の公共事業に関連するさまざまな取組に関わらせていただく機会を得て、身近なところで自分たちの生活を支えている税について考えることができた。

「甕大橋」開通記念誌寄稿

「甕大橋」開通に寄せて

2年 梶原 湊士

甕大橋の開通おめでとうございます。甕島に住んで十年以上が経ちますが、僕は、この甕島が大好きです。その大好きな甕島が、甕大橋という「甕をひとつにする橋」でつながるということ、とてもうれしく思います。

僕は、小さい頃から橋の工事を見てきました。日々つながっていく橋を見ながら、わくわくする気持ちや感動する気持ちがたくさんわいてきました。今は、新型コロナウイルスの影響であまり外出ができませんが、終息したら、甕大橋をきっかけにたくさんの観光客の方が来てくださると嬉しいです。

また、これまで甕大橋の工事に協力してくださった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。甕大橋がつながるまで、いろいろな出来事があり、完成予定日が二年も延期され、本当に完成するののかという不安もありました。しかし、そんな中で一生懸命がんばってくださった工事関係者の皆様のおかげで、開通の日を迎えることができたのだと思います。ほんとうにありがとうございます。

今、甕島では、島を離れて生活する人が増えて、島に若者が減っているという問題があります。僕は、進学のために島立ちをしても、将来は甕島に戻り、漁業を営む祖父の跡を継ぎたいと思っています。これまで、漁の手伝いをする中で、祖父からいろいろなことを教わってきました。それをもとに、自分で考えた新しいことにも挑戦したいと思っています。たくさんの海の幸に恵まれた甕島の魅力をアピールして、甕島を盛り上げていきたいです。



「甑大橋開通記念誌」表紙
 (薩摩川内市企画政策部 甑はひとつ推進課 発行)



平良トンネル平良側
 「甑大橋建設技術者記念碑」前
 タイムカプセル埋設地



3年生(当時)
 東壱輝さんの書

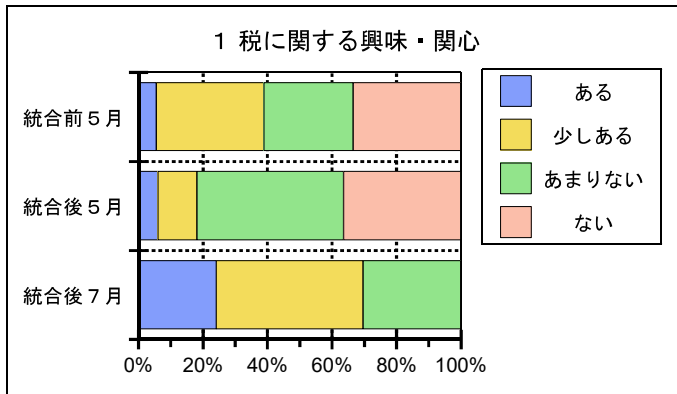
IV 研究のまとめ

1 アンケート結果の分析

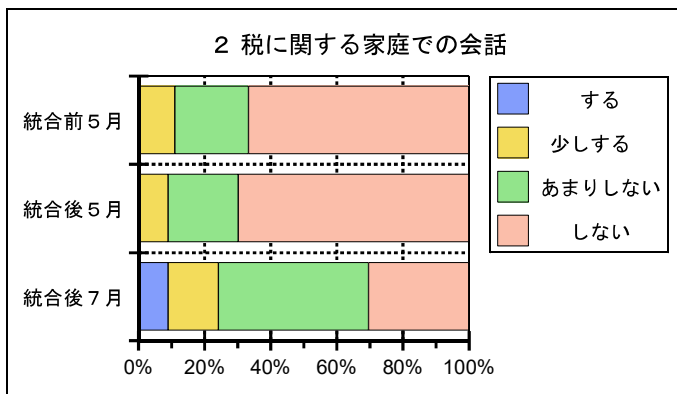
租税教育の研究推進にあたり、定期的にアンケートを実施して生徒の実態把握を行った。研究委嘱期間中に本校と海陽中学校の統合がなされたことから、取組の一つである租税教室では内容的な積み上げという形は取りにくく、1年目・2年目とも税に関する基礎的な内容で行うこととなったが、アンケートの結果を個別に見ると「反復の効果」も見て取れる。

学校教育全般の中で、生徒に税のしくみやその必要性について学ぶ機会をもたせ、考えさせることは、将来的に責任ある社会人として主体的に行動する態度を育成することに繋がり、大変意義があると考え取組を進めてきた。生徒の記述式の回答や租税教室等の感想にもそのような内容が見られ、一定の成果があったと考える。

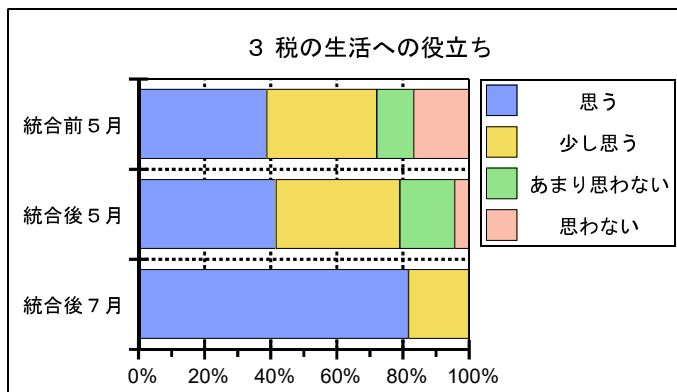
なお、アンケートについては、統合前・統合後で対象者や回答数が異なるため、生徒の割合でおおよそその実態を把握してきた。



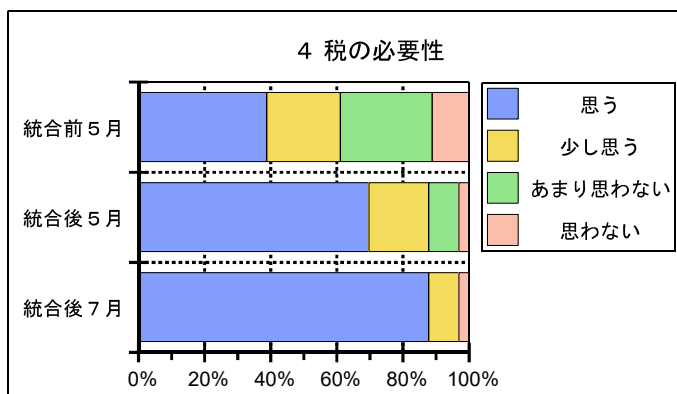
「1 税に関する興味・関心」では、統合前で約6割、統合後には約8割の生徒が「あまりない・ない」と回答している。1年目の取組の成果が見えにくい結果となっているが、1年目の取組を経験しているのが2・3年生の中で元の海星中生のみと考えると当然と言える。1学期の取組だけでも生徒の意識が大きく変わっていることに注目したい。



「2 税に関する家庭での会話」では、租税教育の推進に当たり、生徒を対象とした取組と合わせて、広報活動を中心に、家庭・地域への啓発も積極的に行ってきた。家庭で税について話題にすることがこれまで全くなかったところから、学校便りや学級通信・新聞への記事掲載などが家庭での話題作りにも繋がったのではないかと考える。

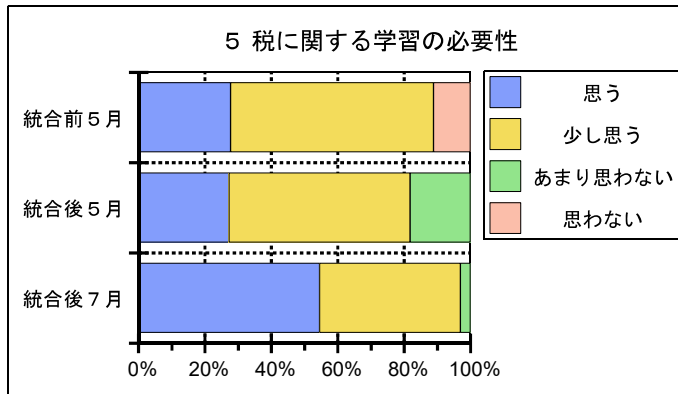


「3 税の生活への役立ち」では、当初から約8割の生徒が「思う・少し思う」と回答していることから、これまでの生活から中学生なりの知識が備わっており、実感する機会もあることがわかる。さらに学習の機会を重ねることで「あまり思わない・思わない」という回答が0になっていることから、これからの生活に学習の効果が十分に期待できることもわかった。



「4 税の必要性」では、税が必要だと思える理由として、当初から「税があることで社会が成り立っている」という内容の記述が多かった。税に関する学習を通してより具体的な記述が増えてきた。

- ・ コロナ対策など人の命を守るため。
- ・ 街がゴミだらけになってしまうから。
- ・ 必要だと思うから、使い方についてちゃんと話し合った方がいい。



「5 税に関する学習の必要性」では、当初から生徒の意識が高かった。「思う」の回答が増加していることから、学習を重ねることで生徒の「もっと知りたい、学びたい」という意欲がさらに高まると考える。

- ・ 自分たちが納める税金で国が成り立っていると思うと、そこまで嫌じゃなくなった。
- ・ 消費税が高くてもありがたいと思うようになった。

2 成果と課題

(1) 成果

- ア 税に関するさまざまな取組を通して、生徒の税に関する興味・関心が高まり、税が生活に役立っていると考えた生徒が増えた。
- イ 税に関する学習を通して、生徒はその役割や必要性について正しく理解するとともに、さらなる学びへの意欲を高めることができた。
- ウ 各種通信や校内掲示等で「税」に関する啓発活動や学校環境の工夫・改善を進めることで、生徒・保護者・教職員の税に対する意識を向上させることができた。
- エ 税に関する作品への取組や生徒会活動・公共事業に関わる取組等を通して、生徒が身近な生活にある税の役割を認識したり、公共物や資源を大切にする態度を養うことにつなげることができた。

(2) 課題

- ア 2年間の研究の成果を踏まえた、継続的な取組と教育課程への位置づけ
 - 特定の教科・領域の枠にとどまらない、全教育活動の中での体系的でつながりのある取組と実践
- イ 生徒が主体的・探究的に取り組める学習内容の選定
 - テーマ学習や事前・事後学習を含めた租税教室の計画立案
- ウ 租税教育を通しての地域に開かれた学校づくり
 - 地域人材の活用や啓発活動の充実

V おわりに

2年間にわたり、研究委嘱校として研究に取り組んできた。今回の取組から、生徒が税の役割や重要性について考え、正しい知識を得ることは、さらなる学びへの意欲や、よりよい生活を追求する意欲にもつながるということがわかった。これは、将来的には「主たる納税者としての自覚」につながっていくものであり、責任ある社会人として自主的に判断し行動する能力を育成するという点からも、大変有意義な取組であると考えている。また、2年目に海陽中学校と統合したが、1年目の2校の取組に差があり、生徒の意識を高めるのに苦労した。これまでの取組から見えてきた課題を改善しながら、今後も研究を続けていきたい。

今回、このような機会を与えてくださった鹿児島県租税教育推進協議会をはじめ、川内税務署、財務省九州財務局鹿児島財務事務所、鹿児島税務署、その他関係機関の方々には、多大なるご指導やご協力をいただいた。心からお礼を申し上げたい。